

活動レポート

青年技術士交流委員会

テクニカルスクール 合意形成の技法

近年、環境問題やまちづくり等の社会資本整備では、様々な立場の意見を集約し、合意形成を図る必要に迫られる場面が多くなっています。

そこで、青年技術士交流委員会では、2008年(平成20年)4月より非営利法人(NPO)PI-Forum(ピー・アイ・フォーラム)より講師をお招きし、セミナー形式のテクニカルスクールを開催しました。

PI-Forumは、環境問題やまちづくりなどに代表される合意形成の重要性に対する社会的な認識を高め、中立的な立場から合意形成の仕組み、技術、知恵を社会に提供することを目的とした非営利法人(NPO)です。(http://www.pi-forum.org/)

第1回は4月17日に「合意形成の技法—公共的事業におけるファシリテーションとは—」、第2回は7月14日に「合意形成の技法—メディエーション(調停)」を開催しましたので報告します。

講演名：合意形成の技法

—公共的事業におけるファシリテーションとは—

日時：4月17日(木) 15:00~18:30

会場：道銀ビル

講師：非営利法人(NPO)PI-Forum 篠田さやか氏
(オフィス・キュア代表・ファシリテーター)

参加者：32名

講演概要：

第1回は、PI-Forumの一員であり、様々な場面でファシリテーターを実践し、また、数多く講師もされている篠田さやか氏をお招きしての開催となりました。

セミナーは約3時間と通常の2回分のボリュームで実施していただいたため、前半と後半に分けて行われました。



講演される篠田さやか氏

前半は、「立場と利害関係」、「聴く技術(“聞く”ではありません!ここがポイントです)」、「ステークホルダー(利害関係者)分析」に関する講義の後、「ステークホルダー分析」をテーマにしたロールプレイ型の演習を行いました。

後半は、「ファシリテーターの役割と業務」、「(公共的事業における)ファシリテーション技術」についての講義の後、「再構築(リフレーミング)」をテーマにしたロールプレイ型の演習を行いました。

講義と参加者相互によるロールプレイやグループ討議などの参加型演習が効果的に取り入れられ、(公共的事業における)合意形成のためのコミュニケーションの基礎と、ファシリテーション技術について、体感的に深く学ぶことができたと思います。

最後の質疑応答の時間では、参加者からの質問が途切れず、当初予定していた会議時間を大幅に超えてしまうほどの盛り上がりで終了しました。

懇親会は、当委員会初の試み?となるワイン&イタリアンのレストランで実施しました。20名の方が参加され、いつもの立食懇親会とは違う雰囲気の中で、多いに盛り上がりました。

(文責：青年技術士交流委員会 奈良 照一)

講演名：合意形成の技法ーメディエーション(調停)

日時：7月14日(月) 14:00~18:00

会場：道銀ビル

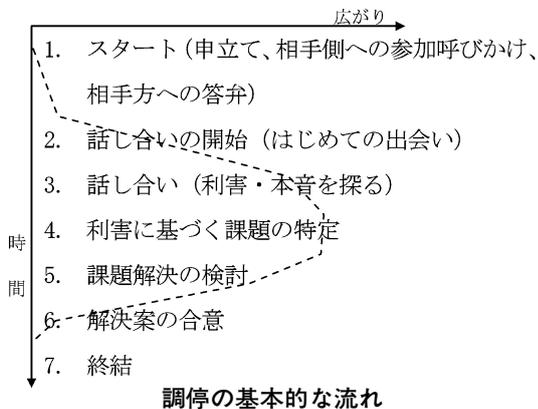
講師：非営利法人(NPO)PI-Forum 入江 秀晃 氏
(早稲田大学紛争交渉研究所客員研究員)

参加者：34名

講演概要：

第1回のテーマであるメディエーション(調停)とは、争っている当事者双方自らが解決方法を見つけ出してゆく話し合いの方法で、当事者の間に第三者の“調停人(メディエーター)”が入り、話し合いを促進する役割を担います。

ここではスクールで実践した内容を紹介します。



調停の基本的な流れ

[傾聴トレーニング]

“人の話を聞く”当たり前の事だが難しい。傾聴トレーニングでは「話を広げる」「話を収束させる」等を意識した会話を実践しました。普段の会話から相手の意図を読み取る訓練が大事であると痛感しました(そして、普段自分はいかに相手の話を聞いていないかということも自覚しました…)

[はじめての出会い(調停の開始)]

ここでは、調停人と2人の当事者が初めて集う際には「雰囲気づくり」、「話し合いのルール確認」などが重要であることを学びました。特に、相手の呼び方を確認する、相手の話は聞く努力をするように促す、といった一見軽微な事項に思えることも、あえて初めの段階できちんと示すことが大事であると感じました。



講演される入江秀晃氏

[調停ロールプレイ]

スクールの最後は、3人のグループで、当事者と調停人の役割を演じ、ロールプレイを行いました。

調停人が、話し合いの中で両者の本音を聞きだし、課題を整理し、合意形成を図るための訓練です。



ロールプレイの様子

まず、全員に共通事項として紛争の内容が示され、さらに当事者にはそれぞれの秘密事項が示されません。

私は当事者役でしたが、調停人を通して話し合いをすることで、自分の譲れる点、譲れない点が徐々に明確になるのを感じることができました。

合意形成を図る技法は、普段の生活においても活用できる部分が多いため、是非とも身につけたい技法であると感じました。

(文責：青年技術士交流委員会 井上 涼子)

EPO(エンジニア・パーク・オンライン)へ登録を希望される方は、①氏名、②所属、③日本技術士会北海道支部の会員・賛助会員等の該当、④自己紹介や抱負等、をお書きの上、以下にeメールをお送り下さい。

seigikyo@ipej-hokkaido.jp ※テキスト形式のみ